

令和元年度 第1回 学校評議員会議事録

日 時 令和元年6月5日(水) 15:30～

場 所 本校小会議室

参加者 評議員 宮 下 侗 様 (富士吉田市立下吉田中学校長)
宮 下 美佐江 様 (石原会計事務所・主婦)
鶴 田 清 司 様 (都留文科大学教養学部学校教育学科教授)
粟 井 晶 子 様 (公益財団法人粟井英朗環境財団法人 代表理事)

職 員 校長・事務長・第一教頭・第二教頭・総務部職員(記録)

- 1 校長挨拶
- 2 委嘱状交付
- 3 自己紹介
- 4 学校評議員の活動に関する説明
 - (1) 学校評議員設置要綱について
 - (2) 昨年度の活動報告について
 - (3) 今年度の年間計画について
 - ・参観可能行事について
- 5 本校の概要説明
 - (1) 教育目標等について
 - (2) 吉高 GP について
 - ・吉高GPの中に、コミュニケーション能力や忍耐力を除外した経緯を説明。
 - ・導入の経緯は、教育目標をそれまでの抽象的なものから、より具体的なものとして提示することにした。
 - ・当初は、生徒が積極的に吉高GPについてのアクションを起こし、昨年末頃からは、PTAもこの取り組みに協力してくれるようになってきた。
 - ・「スローガン」についても、校長就任時に掲げたものを、3年間継続してきた。
 - (3) 学校の概要について
 - H30年度進路状況について
 - 生徒の居住地について
 - ・入学生の居住地域は、近年の傾向として、都留地区からの流入が目立つようになってきた。
 - 各学年の状況
 - 部活動について
 - 蒼風祭について
 - 学校評価項目について 他

6 懇 談

- 評議員 : 教育の目的や目標というのは、学校ごとに設定するものなのか？
- 校 長 : 県教委の指針に則して、学校独自で設定している。本校では、抽象的なものではなく、より具体化するべきだと考え提示することにした。
- 評議員 : 吉田高校では、文科省が求めているものを、学校独自で表現を変えてうまく提示している。
- 評議員 : アクティブ・ラーニングの視点については、どのようにお考えか？
- 校 長 : アクティブ・ラーニングという言葉にとらわれず、授業の評価シートを作成して、その視点を取り入れた教育を目指している。
また、平素の授業を通じて実践するように心がけてもらっている。
- 教 頭 : 現在、中学校でもそういう流れになってきている。
- 評議員 : 中学校現場においても、現実の授業で改善が行われてきている。
- 評議員 : 蒼風祭におけるミュージカル導入の経緯はどのようなものか？
- 校 長 : 10年ほど前に導入した。当時の音楽の教員が提唱したものだ。
教員からの反応はいまひとつであったが、導入に踏み切った。
紆余曲折を経ながら、現在の形に仕上がってきた。
- 評議員 : このミュージカル製作を通して、吉高G Pが発揮できるのではないかと？
- 評議員 : 実際に見たことがあるが、なかなかのもので、演者だけでなく、舞台や音響等の面でも非常に完成度が高いものだと感じた。
- 評議員 : 部活動の加入率が非常に高いようだ。
- 評議員 : 吉高に対する印象は、最初は勉強だけかと思っていたけれど、部活動をはじめ色々なことに挑戦し、頑張っていると感じた。
- 評議員 : 学習記録について教えてほしい。
- 校 長 : 学年ごとに違いはあるが、Classi や紙媒体を使って記録を活用している。
- 評議員 : 吉高G Pの評価についてはどうか？
- 校 長 : 吉高G Pについては、生徒会が走りすぎるくらい前のめりに取り組もうとしている。(笑)
- 評議員 : 先輩が率先して取り組むことで、後輩の励みになっているのではないかと？
- 校 長 : 最近では、P T Aも蒼風祭での模擬店に向けて吉高G Pを意識して取り組んでいる。
- 教 頭 : 活発な意見交換、ありがとうございました。それでは諸連絡お願いします。

(次回の日程説明)

終了